

令和6年度

一宮小学校
「学力向上実行プラン」

- ①自ら考え、主体的に学習に取り組む授業の実践
- ②考えを伝え合い、学び合う授業の実践

学力向上推進員 阿部 玲子 (5年)	委員 教頭:細川貴史(支援) 教務主任:荒木哲夫(4年) 特別支援教育コーディネーター:阿部沙苗(支援)
	1年:塩田美穂 2年:横田順子 3年:紡車多希子 6年:津田宗宏 養護教諭:今田香凜

校長

松尾 みゆき



【各校の取組状況の把握について】

教員からの報告や提案、テスト、学校評価アンケートの結果等を元に、定期的に取り組状況の情報交換・見直しを行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○真面目に学習に取り組む児童が多く、ノートテイクや視写はできている。 ●文章を読むことに抵抗があり、内容を正確に読み取ったり活用したりすることに課題がある。既習の内容をいろいろな学習場面で生かしていないことがある。	・学年に応じた、読み・書き・計算の基礎的な力を確実に身に付けることができる。身に付けた力を生活や別の学習でも活用できる。 ・自分の意見を理由をつけて書いたり話したりすることができる。	・苦手な内容を把握し、スモールステップで課題のドリル学習をさせる。既習内容の復習ができるように、学習させたい内容の掲示物を身近なところに増やす。 ・辞書やタブレットを活用し、分からないことはすぐに調べる習慣をつける。	・相手に伝える内容に根拠を示すために、タブレットなどで調べた事柄を合わせて伝えるようにする。 ・既習内容の掲示の回数と種類を増やす。	・前時の内容の復習や、既習内容を活用した応用問題に取り組む機会を増やし、定着を図った。 ・調べ活動にタブレットや辞書を使用する回数が増え、自ら調べたり調べたいことを見つけたりした。	・ミライシードなどの問題の活用や基礎的学習の機会を増やす。 ・教科横断的な学習機会を取り入れ、応用力をつける。 ・短文作りなどを取り入れ、語彙力を高める。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○教師や友達の話を聞く態度が身に付いてきた。 ●自分の考えに自信がなく、語彙力も少ないため自分の言葉で表現したり、友だちの意見と比べながらよりよい考えを練りあげたり、文章を構成し表現したりすることに課題がある。	・話し手がどんな内容の話をしているのかを理解しながら聞くことができる。 ・話を最後まで聞き、自分の意見を言ったり、書いたりして相手に伝えることができる。	・学年に応じた話す・聞くスキルを指導する中で、自分の考えに理由をつけて話すことを繰り返し指導する。 ・文の書き方や話し方のモデルを示したり、表現した内容を認めたりして表現することへの抵抗を減らす。	・根拠のある内容が相手にわかるように伝えたり、相手に合わせた話し方ができるようにするために、よりよい資料を探したり生かしたりする活動を取り入れる。	・作文読本を利用した作文指導や出品を目標にし、相手にわかる文を書くという意識を持たせたり、取り上げられた満足感を得られたりした。 ・長文を最後まで読み理解することに課題がある。	・伝えたいことがあってもうまく伝える方法がわからないことがあったので、聞き方・話し方のモデルを示す。 ・聞くことを重視し、相手の意見に対する自分の思いを伝え合うことで考えを深める活動を行う。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○指示されたことや与えられた課題に、真面目に取り組む。 ●計画的に取り組んだり見通しを持って解決しようとした点に課題がある。難しいことに粘り強く取り組んだり、競い合って高め合ったりする意欲に乏しい。	・課題解決できるように見通しをもって計画を立てることができる。 ・めあてが達成できているかを自分で確かめたり学習したことを振り返ったりできる。	・本時のめあてをはっきりさせ、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにする。 ・あと少しがんばればできるような課題を教師が設定したり問題の出し方を工夫したりする。 ・ポジティブな行動支援を行い、子どもが自信をもって取り組めるようにする。	・目的意識をもたせて、相手に応じた文を設定した時間で書けるようにする。 ・すき間時間を利用したミニテストで基礎学力の定着を図り、自信をもたせる。	・自分の成果を発表できる場を設け、児童同士の声かけで自信がもてるようにできた。発表内容に応じたプレゼンの仕方を工夫した。 ・学習規律を整えることで、意欲が高まりよい声かけができていた。	・自分で課題を見つけて取り組めるよう、家庭学習のヒントを身近なところにもたせておく。 ・文中で気をつけるべきキーワードを示し、内容理解の補助にする。

令和6年度 学力向上ロードマップ

